

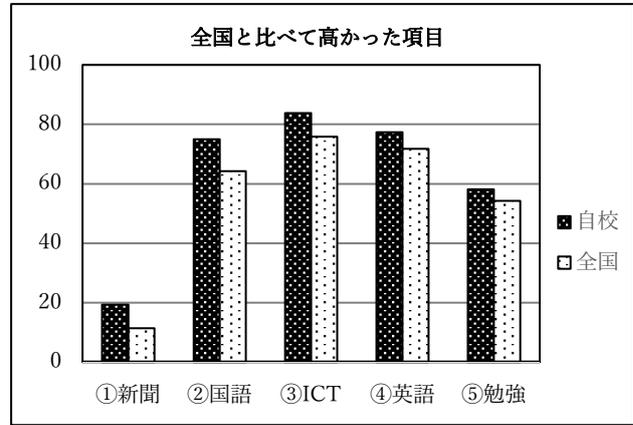
令和5年4月実施

6・9年 全国学力・学習状況調査結果及び分析、今後の取組について

◆6年 質問紙調査（生活や学習に関する調査）から

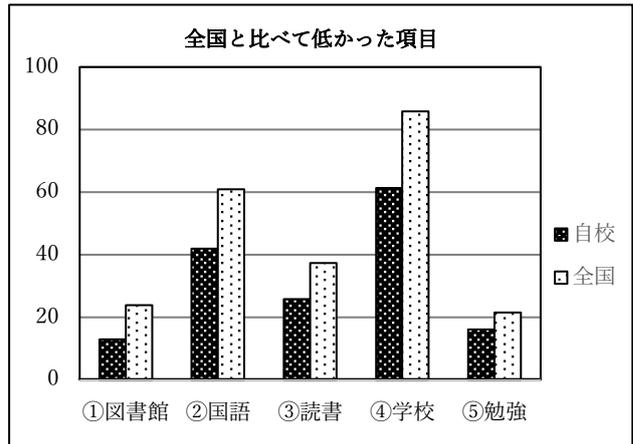
【全国の割合と比べて数値が高かった項目】

	調査の項目
①	新聞を週に1回以上読む
②	国語の解答時間は十分だった
③	授業で、PC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使用する
④	英語の勉強が好き
⑤	学校の授業以外に、普段(平日)、1日当たり1時間以上勉強する



【全国の割合と比べて数値が低かった項目】

	調査の項目
①	昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり借りたりするために、学校や地域の図書館に週1回以上行く
②	国語の勉強が好き
③	学校の授業時間以外に、普段(平日)、1日当たり30分以上読書をする
④	学校に行くのが楽しい
⑤	学校が休みの日(休日)に、1日当たり2時間以上勉強する



改善に向けた取組

【図書館利用を増やす】

図書館を利用する曜日を決めて利用を促す。

【国語好きを増やす】

児童が国語に興味をもてるよう授業改善を図る。

【家庭読書を増やす】

家庭で読書をするようお便り等で促したり、1日の読書の時間を記録させたりする。

【学校好きを増やす】

仲間づくりの活動を取り入れたり、みんなで学び合ったり高め合ったりできるような場面を多く取り入れたりする。

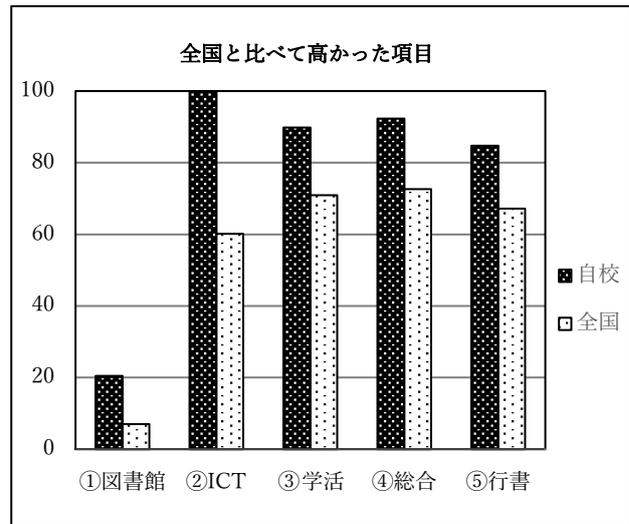
【休日の勉強時間を増やす】

週末課題に取り組みせ、休日における学習の習慣化を図る。

◆9年 質問紙調査（生活や学習に関する調査）から

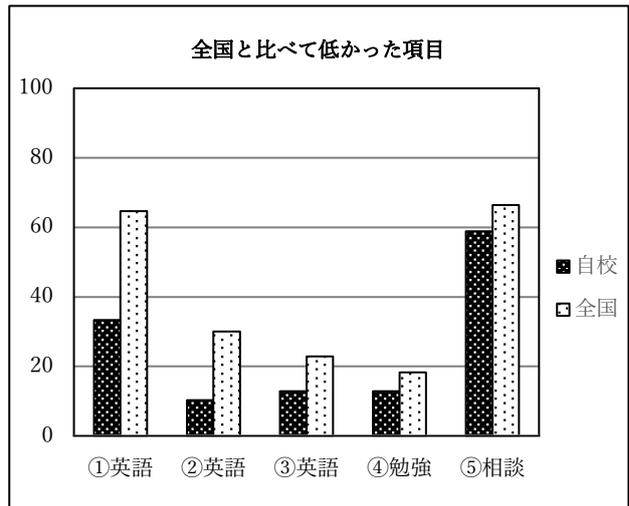
【全国の割合と比べて数値が高かった項目】

	調査の項目
①	昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり借りたりするために、学校や地域の図書館に週1回以上行く
②	授業で、PC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使用する
③	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分がすべきことを決めて取り組む
④	総合的な学習の時間に、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組む
⑤	国語で学習した「行書の基礎的な書き方」を理解して書く



【全国の割合と比べて数値が低かった項目】

	調査の項目
①	英語の授業内容がよく分かる
②	学校や授業のための学習以外で、日常的に英語を使う機会が十分にある
③	家庭学習として、週1回程度以上、PC・タブレットなどのICT機器を使用して、英語の音声を聞いたり英語を話す練習をしたりする
④	学校が休みの日(休日)に、1日当たり3時間以上勉強する
⑤	困りごとや不安があるとき、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる



改善に向けた取組

【分かる英語授業にする】

英語の学習方法について英語科通信等を用いて発信する。

【英語を使う機会を増やす】

週1回、給食時間に Google Meet で英語発話を配信し、話している場面を見せたり、実際に生徒を出演させたりして、英語で話す機会の日常化を図る。また、English board で外国の文化や記事を紹介し、ALT とのコミュニケーションの機会を増やす。

【ICT を活用して家庭で英語を聞く・話す機会を増やす】

SAG Ae スタディの活用を促進する。

【休日の勉強時間を増やす】

家庭教育指針週間のデータを基に、家庭学習と授業の連携を進め、タブレットの活用も含めた自発的な学習を促す。

【相談しやすい学校づくりを進める】

魅力ある学校づくりを目指して、支持的風土を醸成し、学習面と生活面の両方で生徒を支えていく。

◆6年 国語科

全体の概要

- ・6年国語科の正答率は、全国平均と**ほぼ同じ**であった。
- ・全国と比べて、数値が特に高かった内容は「書くこと」であった。
- ・全国と比べて、数値が低かった内容はなかった。

特に課題が見られた設問		改善に向けた手立て
【解答形式】 選択 【観 点】 思考・判断・表現 【内 容】 話すこと	≪つまずき要因≫ ・ 題意を捉えられない。 ・ 話合いや日常会話の未熟さ。	○ 日頃の話合いや日常会話において、分かりやすく話し、しっかりと聞く訓練をしていく。

◆6年 算数科

全体の概要

- ・6年算数科の正答率は、全国平均を**やや上回った**。
- ・全国と比べて、数値が高かった領域は「変化と関係」であった。
- ・全国と比べて、数値が特に低かった領域は「図形」であった。

特に課題が見られた設問		改善に向けた手立て
【解答形式】 選択 【観 点】 知識・技能 【領 域】 変化と関係	≪つまずき要因≫ ・ 割合の意味理解が不十分。	○ 割合の意味を他に分かりやすく説明する場を設定する。 ○ いろいろなバリエーションの割合問題に取り組みさせる。

◆9年 国語科

全体の概要

- ・9年国語科の正答率は、全国平均と**ほぼ同じ**であった。
- ・全国と比べて、数値が特に高かった内容は「情報の使い方に関する事項」であった。
- ・全国と比べて、数値が特に低かった内容は「我が国の言語文化に関する事項」であった。

特に課題が見られた設問		改善に向けた手立て
【解答形式】 短答 【観 点】 知識・技能 【内 容】 言葉の特徴や使い方	≪つまずき要因≫ ・ 低い語彙力。 ・ 基礎知識(「漢字」)が未定着。	○ 反復練習で、語彙力や基礎知識の定着度を上げていく。

◆9年 数学科

全体の概要

- ・9年数学科の正答率は、全国平均と**ほぼ同じ**であった。
- ・全国と比べて、数値が特に高かった領域は「データの活用」であった。
- ・全国と比べて、数値が低かった領域はなかった。

特に課題が見られた設問		改善に向けた手立て
【解答形式】 選択 【観 点】 知識・技能 【領 域】 数と式	≪つまずき要因≫ ・ 基礎知識(「自然数」)が未定着。	○ 反復練習で、基礎知識の定着度を上げていく。

◆9年 英語科

全体の概要

- ・9年英語科の正答率は、全国平均を**大きく下回った**。
- ・全国と比べて、数値が高かった領域はなかった。
- ・全国と比べて、数値が特に低かった領域は「書くこと」であった。

特に課題が見られた設問

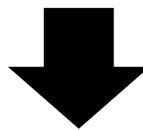
- 【解答形式】選択
【観 点】知識・技能
【領 域】読むこと

《つまずき要因》

- ・グラフや表を英文読解の手がかりにできていない。
- ・テーマや条件に合った英文を書くことができていない。

改善に向けた手立て

- グラフや表と関連付けて英文を読む練習をさせる。
- テーマや条件に合った英文を書く練習をさせる。



全国学調結果とその分析を受けての

今後の重点取組

1・2年グループ

- 漢字や計算の反復練習。
- 既習の片仮名や漢字を使わせる。
- 自分の考えを正しい言葉で説明させる。(よい例を紹介する。)
- 条件を付けて「まとめ」「ふり返り」を書かせる。

3・4年グループ

「基礎の定着」を目指し

- 音読計算
- 漢字テスト
- スピーチタイム

をしっかりと行っていく。

5～7年グループ

- 条件に合わせて考えをまとめる力を付ける。(ただ書くだけにならないように)
- 問われていることをきちんと理解させる。(言いかえる、説明させるなど)



「書くこと」や「対話」を適宜入れていく。

8・9年グループ

- 「知識・技能」を問うような小テスト、単元テストの実施。
- 評価規準を示し、生徒と共有し、還元(フィードバック)する。